

第9回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜ ターゲット型 尼崎市地域包括支援センターのみなさまと ～尼崎市の高齢者施策（取組）について～ ＞

参加者意見（※）概要

と き	令和6年9月26日（木） 午前9時30分から午前11時30分まで
と ころ	中央北生涯学習プラザ 1階学習室A・B・C
出 席 者	参加者 12人、市長ほか関係者 11人 計23人
トークテーマ	①介護予防・フレイル対策・認知症施策・社会参加の促進など、地域で支える高齢者の活動支援についての好事例や課題 ②地域で支援を行っているときに感じる介護従事者不足の現状やその解消のための人材確保・定着に向けた課題

※ 当日の録音に不具合があったため、対話録の概要ではなく、今回は参加者からの主な意見内容を掲載

【包括支援センター職員の処遇や働き方について】

- ・ 包括支援センターの業務は専門性もあり、なかなか担い手も見つからず、また欠員が生じた際も欠員のまま限られた人数で対応をしていたこともある。センター職員の処遇が少しでも改善されるよう委託料の増額について検討してもらいたい。
- ・ 生活保護受給者への支援にあたっては、センターの本来業務ではない、金銭管理や通院介助を行うこともある。
- ・ 救急搬送され、入院にならなかった場合は夜間でも帰宅せざるを得ない場合があるが、そうした際もケアマネジャーが介護タクシーを手配する場合があります、医療機関から介護タクシーに繋ぐ仕組みがあればと思う。また、生活保護ではないが、金銭的余裕がない人に関しても、医療機関からの帰りの交通費がない例もあり、救急搬送時の帰りのタクシー代の立て替え払いなどについて検討してもらいたい。
- ・ 尼崎市で福祉の仕事をしたい、続けたいと思えるようなモチベーションアップの取組をお願いしたい。例えば、大阪市はコロナ禍において、福祉職に商品券を渡した。高齢分野に限らず、保育、児童、障害であっても、尼崎で福祉職をしようと思える取り組みに期待したい。また、ケアマネジャーとして働き続けるには更新と更新に係る費用が発生する。人手不足もあり、更新費用の助成について検討してもらいたい。
- ・ 福祉人材の処遇改善に包括支援センター職員は含まれておらず低処遇である。更に、「誰もしない隙間支援」への対応が発生している。国による給付金の受給申請ができない高齢者がおり包括支援センターがサポートした。「わからない」と言ってくれる人は良いが、わからず放置している人もいるのではないかと。取り残されている人がいる。

- ・尼崎市の福祉ネットワークは他市と比べても非常に高いポテンシャルだと思う。しかし、介護保険や生活保護制度などの理念である自立支援を遂行するには、ケアマネジャーや包括支援センター職員のスキルが必要であり、こうしたスキルを有する職員が継続して支援できる体制作りが必要。

【介護保険制度（事業）の運用について】

- ・余命が短い方の介護申請に関して、現状、例外給付申請書の作成及び提出が必要であるが、本人や家族の精神的な負担を軽減するためにも、速やかに福祉用具が支給されるよう要介護度合に応じて手続の簡略化をお願いしたい。
- ・認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な方々の、不動産や預貯金などの財産を管理する成年後見制度の申し立てに関して、他市よりも時間がかかっている印象を受ける。

【市に期待すること】

- ・引きこもり、閉じこもりで足腰が弱くなり、認知症も発症する人が多い。一方、人との交流や地域とのつながりができることで、楽しみや生きがいとなり、元気になる高齢者もいることから、高齢者に対する理解があるコミュニティナースといった人が、高齢者が元気になる活動の提案・実施・声かけ・見守りなどを行い、支援が必要となった場合には専門職につなぐ役割の人が各地域に配置できれば良いのではないかな。
- ・包括支援センターの移転に際しては、初期の設備投資などにも費用がかかるため、何らかの支援をお願いしたい。
- ・外出手段がないと、引きこもりになり、フレイル状態、認知症の進行など悪循環な状態になってしまう中、市内でいうと戸ノ内などは公共交通機関が乏しく、高齢者も自家用車、自転車の運転をせざるをえない状況であるため、そういった地域に住む方の移動手段の確保についても検討願いたい。
- ・包括支援センターは市役所各課（包括支援担当、地域保健、生活保護関係）とも連携や調整が必須である。市役所各課の職員がきめ細かな課題への対応やアウトリーチをしやすくしたり、また余裕を持って働けるよう市役所の福祉関連部局の増員もお願いしたい。

【その他の意見】

- ・自分でできることでも「認定を受けたから」「介護保険料を払っているから使わないと損」という考えの方が一定数存在する。包括支援センターで相談を受ける中で、「介護保険って何をしてくれるの」「どんなことをしてもらえるの」という相談が多い印象がある。医師も高齢ということのみで介護サービスの利用を提案するケースもあるが、「その人にとって必要な支援は何か」という考え方を持ってもらいたい。

- ・ 阪神尼崎駅近くにある「なないろカフェ」で、認知症患者がカフェ店員となって働くモデル企画を実施したが、本人、不安があった半面楽しかった様子で、またこのような機会があればと思う。
- ・ 包括支援センターにおける相談業務では、「働きたい」という声も時々あり、簡単な手作業で、他の参加者との交流もして気軽に集える場があれば良いと思う。市が取り組んでいる「生きがい就労」など、高齢者が働く場は大事であると思う。
- ・ 孤立は、生活の場面で簡単に生じ、また孤立の継続は無気力、「公助」への期待と繋がっていると日々体感する。孤立している人が地域に出てもらおう仕組みとして、小さくても多様な趣向・ニーズに合った場が沢山ある状態が理想だと思う。
- ・ 今年は猛暑の為、熱中症の高齢者が沢山搬送された。特にセルフネグレクトの方は自宅に閉じこもりきりでクーラーもつけず命に関わる。そのため、レスキュー隊と連携し搬送することがあるが、拒否が強い場合は無理やり連れてゆくことが難しく人権問題にも関わると感じる。

以 上